



繋がる

校長 小澤 秋仁

父が20年間、乗り続けてきた軽自動車を高齢ということもあり、手放すことになりました。30年近くお付き合いのある自動車修理工場の社長さんをお願いして、手続きを取りました。社長さんは、穏やかで頼りになる方です。「軽自動車の中古がすぐに欲しい」「軽トラックを明日使いたい」「原付バイクの中古を探して」車ばかりではなくバイクまで、どんな無理な注文も、「いいよ!」笑顔で引き受けて下さいます。父の軽自動車は走行距離が20万kmを越え、あちらこちらに傷があり、自動車としての価値はほぼありません。その車の傷を埋め、エンジンをメンテナンスした上で、次のオーナーを探していただけるのです。車の命が次のオーナーへと繋がります。そのような方ですから、私と同様に社長を頼りにする繋がりが多いことは言うまでもありません。先だって、その仲間たちと共に“社長の75歳を祝う会”が開かれました。幹事の皆さんは、社長夫妻の結婚25周年でもあるためサプライズパーティーにしようと、社長のスケジュールを把握しながら、内密に物事を進めていました。ところが開催予定である誕生日に、社長が東北・宮城へ行くかなと言いだめたのです。本人がいなければ参加者がサプライズしてしまいます。

東北の大震災以来、社長と奥様は時間をつくっては、被災地域復興のために赴き、力を注いできました。500km近くの道のりを奥様と共に、軽のワゴン車で移動し、簡易ベッドに改造した後部座席に寝泊りするのです。宮城県南三陸町へは150回を超える訪問。社長はがれきを片付け、奥様は地域の方々に寄り添い、そんな姿に地元の方々は家族同様に迎え入れてくれるようになったそうです。被災したと聞けば、各地に駆けつけています。3年前の秋田県の豪雨、2年前の日立市の豪雨、去年の能登の大震災では、能登半島の輪島市や富山県で被害を受けた氷見地区など、少しでも役に立てるようにと今なお奔走しています。

結局、パーティーについて事前に伝えることに。誕生日に社長夫妻のために仲間が集まり開催する運びとなりました。会は進み、参列者からお祝いの挨拶をご夫妻に贈りました。中盤に差し掛かると、主役からの挨拶です。人との繋がり、復興支援で巡り合った現地の方々との繋がりに感謝の言葉が並びました。途端に、穏やかな表情が強張ります。「『地球が怒っている!!』地震、豪雨、気候変動だからというが、それだって人間の仕業。私たちは生活をしながら、どうしても地球を怒らせる方向に進んでしまう。意識しないと、今小さな子供が大人になった時にこの地球が大変なことになってしまう。』ご自身の誕生日のことより、これからの日本をそして地球を支えてくれる次世代の若者に、素敵な地球を残す義務があると強く訴えたのです。自然災害が起こるのではない、地球が怒るのだと。



3月11日、東日本大震災から14年の月日が経ちました。今日の給食は、東北の復興を祈り、宮城県登米(とめ)市の名物あぶら麴井と東北の郷土料理・いものこ汁です。本校では防災教育に力を入れております。先日も、石川県の食材を使った献立や郷土料理を給食で提供しました。あぶら麴井をいただきながら、石川県富来中学校の芳野教頭先生の「富来中の生徒に石川に思いを寄せてください」という言葉を思い出します。防災教育を通して、清瀬中学校では『人との繋がり』を考えています。遠い空の下で私たちは繋がっているのです。

当日、夫妻はいつもの赤と白の作業着。奥様曰く「赤い作業着が来たって、みんなが。赤にインパクトがあったのかな。南三陸町の人たちに覚えてもらったの。」赤と白のツナギは、人々をつなぐ証だったのです。


 南三陸は食料町。
 海・川・山・人に恵まれ
 一年中、おいしい町でもあります。

 南三陸町の復興特集に掲載された
 社長夫妻

キョリンピック

2月の最終週と3月第一週に渡り、昼休みの時間を使って「キョリンピック」を開催しました。

競技は“シュートゲーム”と“フリースロー対決”の2種目です。スマイルボールという名の軽量ボールを使用して、スポーツに対して消極的な生徒にもチャレンジしてもらおうという企画でした。顕著であったのが、フリースローラインからバスケットボールでシュートを打ってもゴールまで届かない選手が、スマイルボールなら届くというようなケースです。これをきっかけにほんの少しでも良いので、スポーツに積極的になってくれれば大成功です。



I 組 A 学級 閉級

令和7年3月31日をもってI組A学級が閉級となります。昭和51年4月1日 清瀬中学校に知的の固定学級が開設され50年の月日が流れました。3年生の司会で進みました。

生バンド演奏による、ダンスと合唱を披露しました。ダンスは4曲



もの大作。決めのポーズもカッコよく、笑顔で結びました。

B学級は引き続き、清瀬中にて学んで参ります。

がん教育

東京都教育委員会では、文部科学省のガイドラインに従い、“がん教育”を進めております。

2年生の保健の授業で、がんについて取り扱うことから、本校では2年生を対象に行っております。

3月7日に、大野医院の有路 登志紀氏を講師にお迎えして、講演会を開催しました。検査方法や治療方法



は日々進歩していますが、がんの予防法として、「日々を笑顔で過ごすことが大切です」とお話しいただきました。笑顔と免疫力の向上は関連するようです。

心肺蘇生

清瀬消防署のご協力により、1年生は心配蘇生法の講習を受けました。

突如として心肺停止に陥り倒れている人と遭遇した場合、周りの人に声をかけ、119番通報をする、AEDを手配する、胸骨を圧迫する。人工呼吸ができる場合は、30回の胸部圧迫に対し、2回吹き込むと、学びました。懸命に人形を使って胸部を圧迫していました。



植栽活動

3月11日、PTA文化厚生委員さん5名のご協力により、植栽活動を行いました。19日に行われる卒業式に向けて、気持ちを込めて26名のボランティア生徒たちが植栽しました。



落語を楽しもう

3月10日、3年生は、柳亭こみちさんをお招きして落語独演会を観ました。扇子や手拭いをつかい身振りや表情そして話だけで何役も演じ分けます。大衆芸能に分類されることが多い落語ですが、これは正に日本の文化です。

